

事業名：地域スポーツ活動活性化促進事業

生涯学習課 青少年・スポーツ振興係

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実							
施策	05 市民スポーツ活動の充実							
基本事業	02 スポーツ・レクリエーション機会の充実							
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

学校、自治会等

手段（事務事業の内容、やり方）

地域や学校、団体などにメニューを提示し、選ばれた軽スポーツメニューの指導要求に応じ、スポーツ推進委員が指導に出かける。活動場所の確保は依頼団体が行う。
メニューはミニテニス、フライングディスク、ユニカール、ハッピーボウリング、ティーボール、長なわとび&バンジージャンプの6種類。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

軽スポーツ、レクリエーションに親しむ人を増やす。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	学校、自治会等の数	団体	190	190	189	190
対象指標2						
活動指標1	スポーツ推進委員数	人	30	30	29	30
活動指標2						
成果指標1	出前指導派遣者数	人	18	21	17	26
成果指標2						
事業費(A)		千円	233	267	277	341
正職員人件費(B)		千円	401	401	391	391
総事業費(A+B)		千円	634	668	668	732

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	地域や学校、団体からの申込に応じ、スポーツ推進委員を派遣して、軽スポーツを指導・普及した。	・スポーツ推進委員報酬 99千円

事業を取り巻く環境変化
事業開始背景
事業を取り巻く環境変化

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

妥当である	理由 根拠	スポーツ活動に親しむ機会の少ない市民がスポーツ推進委員の指導の下、レクリエーションや軽スポーツに触れることによって、継続的なスポーツ活動への動機づけが図られる。
妥当性が低い		

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい	理由 根拠	スポーツに親しむことの少ない市民が気軽に活動できる種目を紹介することによって、スポーツ活動の習慣づけが図られ、スポーツ活動機会の充実につながり、スポーツの普及・振興に貢献している。
貢献度ふつう		
貢献度小さい		
基礎的事務事業		

(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

上がっている	理由 根拠	学校レクリエーションや自治会のイベントで普及のための指導を行うことが多く、開催回数は流動的であるが、一定の利用実績があり、軽スポーツの普及に寄与している。
どちらかといえば上がっている		
上がらない		

(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大	理由 根拠	当事業以外でも、スポーツ振興財団では軽スポーツの用具貸出を行っているが、継続的な活動へは結びついていない。指導時にルールなどの指導を行うとともに、軽スポーツ活動の定着に向けた意識指導も行うことで、利用者数の増加が期待できる。
成果向上余地 中		
成果向上余地 小・なし		

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する方法はありませんか？

ある	理由 根拠	事業の効率的な運営に努め、スリム化を図っており、削減は難しい。
なし		